

商 業

1 教育課程の編成

(1) 教科の目標を達成するための教育課程編成上の留意事項

商業科の目標及び育成を目指す資質・能力は、次のとおりである。

商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 商業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) ビジネスに関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- (3) 職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

商業科においては、商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成することが大切である。

各分野においては、教科の目標に示す資質・能力を踏まえ、各分野を通して、職業人として必要な豊かな人間性、他者とコミュニケーションを図り協働する力などを育むことができるよう工夫することが大切である。なお、商業科に属する各科目はもとより、他の教科・科目をはじめ様々な学校教育活動と連携を図るとともに、地域や産業界、高等教育機関などと連携して、人材育成に取り組むことが重要である。

育成を目指す力			
マーケティング分野	マネジメント分野	会計分野	ビジネス情報分野
効果的にマーケティングを展開する力及び顧客を理解し、マーケティングの考え方を踏まえてビジネスを展開する力	経済社会の動向や法規などを踏まえて経営資源を最適に組み合わせてビジネスを展開する力	企業会計に関する法規と基準に基づき適正な会計処理を行い、利害関係者（ステークホルダー）に会計情報を提供する力及び会計情報をビジネスに効果的に活用する力	適切な情報を提供する力及び情報や情報技術をビジネスに効果的に活用する力

(2) 各教科・科目における標準単位数や履修における順序性等

ア 原則履修科目

商業に関する学科においては、基礎的な科目である「ビジネス基礎」と総合的な科目である「課題研究」を、原則として全ての生徒に履修させる必要がある。また、科目の性格やねらいなどからみて、商業に関する各学科においては、「ビジネス基礎」は入学年次で、「課題研究」は卒業年次で履修させることが望ましい。

イ 履修の順序性

「財務会計Ⅱ」は、商業科の系統性に基づき、「財務会計Ⅰ」の内容を前提として

定められているため、教育課程に位置付ける際は、「財務会計Ⅰ」を履修した後に履修させることを原則とする。なお、他の科目に順序性はない。

ウ 分野別の科目構成

各科目の分野別の位置付けは、次の表に示すとおりである。教科組織上の分野（マーケティング分野、マネジメント分野、会計分野、ビジネス情報分野）について、体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにし、また、これらのビジネスを理解し、実践する力を育むことが大切である。併せて、各分野を通して、職業人として必要な豊かな人間性、他者とコミュニケーションを図り協働する力などを育むことが大切である。なお、商業科目の標準単位数はいずれも2～4単位である。

分野別の科目構成



(3) 特色ある教育課程の編成

ア 学校設定科目

学校においては、生徒や学校、地域の実態及び学科の特色等に応じ、特色ある教育課程の編成に資するよう、学校設定科目を設けることができる。この場合、学校設定科目の名称、目標、内容、単位数等については、その科目の属する教科の目標に基づき、高等学校教育としての水準を確保するとともに、関係する各科目の内容との整合性を図ることに十分配慮する必要がある。このことを踏まえ、職業資格の取得やコンクールへの挑戦などを主目的とした学校設定科目を設けることはできない。

商業科においては、通常履修される教育内容などを想定して20科目が示されているが、ビジネスの発展や地域の実態等に対応し、新しい分野の教育を積極的に展開する必要がある場合など、学校設定科目を設けることにより、特色ある教育課程を編成することができる。

イ 専門学科における各教科、科目の履修

専門教科・科目について、全ての生徒に履修させる単位数は、25単位を下らないこととする。ただし、商業に関する学科においては、商業教育における外国語の重要性

を踏まえ、外国語に属する科目について5単位を限度として生徒に履修させる専門教科・科目の単位数に含めることができる。その際、商業科に属する科目として、ビジネスに必要な外国語などを扱う「ビジネス・コミュニケーション」が設けられていることに留意する必要がある。

2 指導計画の作成と内容の取扱い

(1) 指導計画の作成に当たっての配慮事項

商業科における指導計画の作成に当たっては、次の点に配慮する必要がある。

ア 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図ることが必要である。その際、商業の見方・考え方を働かせ、企業活動に関する事象を捉え、専門的な知識、技術などを基にビジネスに対する理解を深めるとともに、ビジネスの振興策などを考案して地域や産業界等に提案し、意見や助言を踏まえて改善を図るなどの実践的・体験的な学習活動の充実を図ることが重要である。なお、指導計画等の作成に当たっては、次のような授業改善の視点を踏まえ、商業科で育成を目指す資質・能力及びその評価の観点との関係も十分に考慮することが必要である。

授業改善の視点		
「主体的な学び」	「対話的な学び」	「深い学び」
<p>ビジネスに関する課題を設定し、様々な教科・科目等で身に付けた知識、技術などを生徒自らが活用し、解決策を考案する学習となっているか。</p> <p>ビジネスに関する理論について、実験などにより確認し妥当性を検討したりしているか。</p> <p>身に付けた知識、技術などを基に新たな視点でビジネスを捉えているか。</p>	<p>ビジネスにおける具体的な事例を取り上げ、専門的な知識、技術などを活用し、妥当性と課題などについて、科学的な根拠に基づいて多面的・多角的に考察や討論を行い、実際のビジネスについて客観的に理解するようにしているか。</p> <p>知識と技術、実際のビジネスに対する理解などを基盤としてビジネスの振興策などを考案して地域や産業界等に提案し、提案に対する意見や助言を踏まえてよりよいものとなるようにしているか。</p>	<p>「商業の見方・考え方」を働かせながら探究の過程を通して学ぶことにより、商業科で育成を目指す資質・能力を獲得するようになっているか。</p> <p>知識と技術、実際のビジネスに対する理解、企画力や創造力などを基盤として、地域を学びのフィールドとして模擬的なビジネスなどに取り組み、その結果を基に改善を図っているか。</p> <p>新たに獲得した資質・能力に基づいた「商業の見方・考え方」を、次の学習やビジネスにおける課題の発見や解決の場面で働かせているか。</p>

イ 地域や産業界等との連携・交流

地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人を育成する視点から、マーケティング計画の立案やビジネスアイデアの考案などにおける地域や産業界等との連携・交流を通じた実践的な学習活動、商業科に属する科目で学んだ内容と密接に結び付いた長期間の就業体験活動、社会人講師による講演や助言などを通して、ビジネスに関する最新の知識、技術などを身に付けることができるよう工夫すること。

また、地域産業の振興を担う人材を育成する視点から、「ビジネス基礎」や「観光ビジネス」などにおいて地域のビジネスに関する指導項目の充実を図っていることから、地域や産業界等との連携・交流を通じた学習活動を通して、地域産業に対する理解を深めるとともに、地域産業に貢献する意識を高めることができるよう工夫することが大切である。

ウ 障がいのある生徒への指導

障がいのある生徒については、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うことが重要である。

(2) 単元の指導計画作成上の留意点

商業科における単元の指導計画の作成に当たっては、次の点に留意する必要がある。

ア 言語活動の充実

ビジネスに関する課題について、経済や市場の動向、ビジネスに関する理論など科学的な根拠に基づいて協働して分析、考察、討論を行い、解決策を考案し、地域や産業界等に提案するなど言語活動の充実を図ることが大切である。

イ コンピュータや情報通信ネットワークなどの活用

各科目における調査や研究などにおいては、コンピュータや情報通信ネットワークなどの積極的な活用を図り、情報の検索・収集、他の学校や地域との情報の交流、学習成果の発表を行うなど、学習の効果を高めるよう工夫することが大切である。

ウ 実験・実習の実施に当たっての学習環境の整備等

実験・実習を行うに当たっては、施設や設備の安全管理に配慮し、学習環境を整えるとともに、事故防止の指導を徹底し、安全と衛生に十分留意すること。また、校外に出て調査・研究・実習などを行う際には、事故の防止や安全管理などに配慮し、指導計画を綿密に作成するとともに、生徒が高校生としての自覚と責任をもって行動し、所期の目的が効果的に達成されるよう、生徒指導にも十分留意する必要がある。

エ 単元の指導計画（例）

ここでは、地域におけるビジネスの推進の必要性を踏まえ、新たに取り入れた科目「ビジネス基礎」の指導項目「(6)身近な地域のビジネス」の指導計画を示す。

科目名	ビジネス基礎		
単元名	(6) 身近な地域のビジネス ア 身近な地域の課題		
単元の目標	身近な地域のビジネスに関する知識などを基盤として、地域のビジネスを取り巻く環境など科学的な根拠に基づいて、地域のビジネスに関する課題解決に向けて、組織の一員としての役割を果たすことができるようにする。		
育成を目指す 資質・能力	知識及び技術	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等
	身近な地域のビジネスを取り巻く環境について理解する。	身近な地域のビジネスに関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて、課題を解決する方法を考察し、地域のビジネスに関する課題解決に向けて自らの考えを表現する。	身近な地域のビジネスについて自ら学び、地域のビジネスに関する課題解決に向けて、主体的かつ協働的に取り組む。
評価の観点	評価規準		評価の方法
思考・ 判断・ 表現	A	身近な地域のビジネスに関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて課題を解決する方法を考察し、地域のビジネスに関する課題解決に向けて自らの考えを適切に表現することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・行動観察 ・模造紙
	B	身近な地域のビジネスに関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて課題を解決する方法を考察し、地域のビジネスに関する課題解決に向けて自らの考えを表現することができる。	
	C	身近な地域のビジネスに関する課題を発見し、課題を解決する方法を考察している。	
過程	授業での学習内容	評価の観点 知！思！態	評価規準 [評価方法]
第一 次	<p>【問い】身近な地域のビジネスは、どのような状況になっているか。</p> <p>【学習内容】 科目「情報処理」と連携 地域経済分析システム (RESAS) 等を活用し、身近な地域の現状について調べる。 URL https://resas.go.jp/</p>	○	<ul style="list-style-type: none"> ・RESASを活用し、地域のビジネスに関する特徴を主体的に調査している。 <p>[ワークシート] [行動観察]</p>
	<p>【問い】身近な地域のビジネスにおいて、基幹産業は何か</p> <p>【学習内容】 家庭学習との組合せ 第一次で調べた内容について、グループ学習により情報を共有するとともに、身近な地域のビジネスの現状についてまとめる。(地域の特徴、産業構造など)</p>	○	<ul style="list-style-type: none"> ・調査結果を基に、身近な地域の現状及び課題について、個人及びグループでまとめ、表現している。 <p>[ワークシート] [模造紙]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な地域におけるビジネスを取り巻く環境について理解している。 <p>[ワークシート]</p>
第三 次	<p>【問い】身近な地域のビジネスにおいては、どのような課題があるか。</p> <p>【学習内容】 家庭学習との組合せ 第二次までに集めた情報から、身近な地域におけるビジネスの課題を列挙するとともに、列挙された課題を類型化、焦点化する。</p>	○	<ul style="list-style-type: none"> ・思考ツールを活用し、身近な地域のビジネスにおける課題を適切にまとめ、表現する技術を身に付けている。 <p>[ワークシート]</p>
	<p>【問い】身近な地域のビジネスの課題が生じた要因は何か。</p> <p>【学習内容】 家庭学習との組合せ 身近な地域におけるビジネスの課題が生じた要因について考察するとともに、各要因のつながりを見つけ、課題解決に向け討論する。また、第一次から第四次までに作成したワークシートを振り返り、気づきを得て、自分の言葉で表現する「学びの振り返り」を行う。</p>	○	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な地域におけるビジネスの課題が生じた要因について思考を深めるとともに、ワークシートを用いて自分の考えを表現している。 <p>[ワークシート] [行動観察]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各要因のつながりを主体的かつ協働的に見つけるとともに、学びの振り返りを行い、新たな見通しを立て、次の学びにつなげている。 <p>[ワークシート]</p>

3 主体的・対話的で深い学びの実践例

ここでは、科目「ビジネス基礎」の指導項目「(6) 身近な地域のビジネス」において、小樽市の観光を題材とした学習の実践例を示す。この学習を基に、科目「観光ビジネス」や科目「課題研究」等で更に専門的な知識・技術の深化、総合化を図ることを目指す。

なお、実践例における情報の収集・処理・分析は科目「情報処理」で取り扱う。

科目名	ビジネス基礎
単元名	(6) 身近な地域のビジネス ア 身近な地域の課題 第二次「身近な地域のビジネスについて」
本時の目標	身近な地域のビジネスを取り巻く環境について理解を深める。

<家庭学習の内容(事前)>

	学習内容	生徒の学習活動	評価の観点・手段
家庭学習	小樽市の観光ビジネスや産業について調べワークシートに記入する。	第一次で学んだ小樽市のHPや地域経済分析システム(RESAS)を活用し、「人口・産業・観光客・観光地・特産品」等を各担当に分けて調べ、「特徴」や「気付いたこと」をワークシートに記入する。	【思】ワークシート

<本時の授業展開>

・科目「情報処理」で学習した、情報の収集・処理・分析を活用し、ワークシートを作成する。

過程	学習内容	生徒の学習活動	評価の観点・手段
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭学習を確認する。 ○ 本時の学習内容と課題の確認をする。 		
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭学習で調べた内容をグループで共有する。 【問い】「人口・産業・観光客・観光地・特産品」より、小樽市の観光ビジネスの特徴を考えよう。 ○ 模造紙を活用し、グループで小樽市の観光ビジネスの特徴を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各担当が調べた内容について、グループで共有する。 ○ 担当が調べた項目を基に、グループで模造紙に小樽市の観光の特徴をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の環境の要因と観光ビジネスの関連をデータから科学的な根拠に基づき考えさせる。 【思】ワークシート 模造紙
	<p>模造紙(例)</p> <h3 style="text-align: center;">小樽市の観光を分析し、課題を考えよう(1班)</h3> <p style="text-align: right;">班員5名:○○・○○・○○・○○・○○</p> <p style="text-align: center;">①模造紙に家庭学習を貼付、担当者が説明する。</p> <p style="text-align: center;">各項目分析(家庭学習を貼り付ける)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="width: 20%;"> <p>1 人口・産業について</p> </div> <div style="width: 20%;"> <p>2 第2次・第3次産業について</p> </div> <div style="width: 20%;"> <p>3 観光客について</p> </div> <div style="width: 20%;"> <p>4 観光地について</p> </div> <div style="width: 20%;"> <p>5 特産品について</p> </div> </div> <p style="text-align: center;">・小樽市のHPや地域経済分析システム(RESAS)のデータを基に作成する。</p> <p style="text-align: center;">グループで考えた特徴</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="width: 20%;"> <p>XXXX</p> <p>XXXX</p> </div> </div> <p style="text-align: center;">他グループの説明から気づいた特徴</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="width: 20%;"> <p>XXXX</p> <p>XXXX</p> </div> </div> <p style="text-align: center;">小樽市の観光の課題</p> <p style="text-align: center;">・複数の項目から特徴を考えても良い。</p> <p style="text-align: center;">・付箋を色分けして、特徴を明確にする。</p> <p style="text-align: center;">・科目「観光ビジネス」「課題研究」において基礎資料として活用できるように考慮する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 担当が調べた項目を基に、グループで模造紙に小樽市の観光の特徴をまとめる。 ・ICTを活用し共同編集することで対話的な学習の深化が期待できる。 	
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ○ ワールドカフェより、各グループでまとめた内容を共有し、他のグループからの情報を加筆する。 ○ 小樽市の観光の課題を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 他グループからの情報を共有し、考えをまとめて加筆する。 ○ 模造紙を基に小樽市の観光ビジネスの課題について考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> 【知】模造紙 ・ICTを活用し、発表を録画することでクラス全員で振り返りができる。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小樽市の特徴や産業についてまとめる。 ○ 次時の家庭学習を提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小樽市の特徴や産業について振り返る。 ○ グループで各担当が家庭学習で調べた内容を共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自治体や商工会議所を直接訪問するなど、インターネット以外の方法で情報を収集しても良い。

<家庭学習の内容(事後)>

	学習内容	生徒の学習活動	評価の観点・手段
家庭学習	本時で作成した模造紙を基に、小樽市の観光ビジネスの課題を個別学習により考察する。	グループ学習から、小樽市の課題を類型化、焦点化して、ワークシートにまとめる。	【思】ワークシート